

皇宮神社：經壘記

經壘記は、土地の歴史を伝えるために、1846年に宮崎代官（地方政府の長）によって建立された石碑です。石碑に刻まれた文字によれば、ここは神武天皇の皇居があった場所であることを伝えており、彼はここから東に向かい、現在の奈良県に朝廷を開き、自らが日本の初代天皇であることを宣言されました。經壘記は、神聖なる建国者との関係を示す証拠として、この地が一度も大きな地震被害を受けたことがないという事実に触れています。

石碑は、天皇崇拜の復活や日本の古代神話に対する新たな関心が生まれた、当時の知的傾向の産物とみなすことができます。学術的に国学（「国について学ぶ」の意）と呼ばれるこの動きは宮崎で盛んとなり、民衆に国学の教義を教える学校が設立されました。土地の歴史が神話の文脈の中で解釈し直され、經壘記で説明されている場所などが、正式な礼拝地に変わることもありました。石碑は皇宮神社があった場所に立っています。現在、同神社はこの近くにあり、神武天皇とその妻、その2人の息子が神道の神として祀られています。